

西宮夙川RC岸下様、JUDY様、多田侑華様、ようこそいらっしやいました。

甲子園球場の話ですが、1924年に球場が完成し、その年はツタが植樹されました。コンクリートの外壁の装飾として成長が早くコストが安いことがツタを選んだ理由と言われています。

日本高校野球連盟は、21世紀に入ると老朽化した甲子園球場は改修されるだろうということで、ツタを伐採される前に球児に苗木を贈って育ててもらい甲子園に戻そうと考え、2000年夏、ツタの苗木を当時の加盟校4170校(今現在4000校を割る)に贈りました。2008年6月に加盟校が育てた生育状態の良い233校のツタが選ばれました。

兵庫県の琴丘高校(姫路市)も選ばれた1校です。高校球児にとっては甲子園出場が当然目標であります。公立校の琴丘高校は野球ではまだ一度も甲子園に出場していませんし、ツタを育て8年間の時間を費やし甲子園にツタをもどしたことは素晴らしいことだと思います。先輩から後輩に受け継がれツタを成長させたことにある意味感動でもあると思います。甲子園常連校の球児たちに、こういう高校野球があると知っていただきたいと思いましたが、現実には、琴丘高校の監督にツタの話を伺いましたところ、公立校ですから転勤もあり、この10年間で3代目の監督ということで、このいい話が前監督から申し伝えられなかった模様で、今の選手たちには何も伝えていないし、ツタの世話も何もしていないし、バックネットに生えているツタに関して無関心だそうです。私が、なぜツタの由来を話さないのか、することによって、ツタを見ることが練習の励みになり琴丘高校の伝統になるのではと尋ねると、監督は自分自身も由来を知らないし、聞いていないから、選手たちには何も言わないということです。何か感動的な話が、高野連も良い行事を行っていると思ったのですが、現実にはむなしく少し寂しい気持ちになりました。

監督と話をしている事を私たちのクラブに置き換えましたら、継続事業は難しいし、改めて大切なことだと感じました。今現在7項目の継続事業、支援事業がありますが、今後それらを発展させる為には、過去のこと・スタート時のことを学ぶ必要があると思いますので、何らかの形で学ぶ機会を作っていただきたいと願っております。